

謠
曲(下卷)

校註

日本文學大系

第廿卷

昭和二年五月二十五日印刷
昭和二年五月二十八日發行

(非賣品)

日本本文學大系

第廿一卷

編輯者兼
發行者

東京市麴町區內幸町一丁目六番地
國民圖書株式會社

右代表者

東京市麴町區內幸町一丁目六番地
中塚榮次郎

印刷者

東京市本所區番場町四番地
井上源之丞

印刷所

東京市本所區番場町四番地
凸版印刷株式會社本所分工場

發行所

東京市麴町區內幸町一丁目六番地
國民圖書株式會社

電話銀座 七二八三番
三六八八番
長幸見京 五二二八番

校註 日本文學大系 第二十一卷目次

謠曲 下卷(自ヲチの部至ヲアの部)……………一—五四〇

古曲拾遺(自ヲアの部至ヲチの部)……………五四一—八〇〇

謠曲小引……………卷尾……………一—七

謠曲下卷目次

チの部

竹生鳥 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一三

張良 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一七

ツの部

土蜘蛛 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 二一

土車 (觀世、喜多) 二五

經政 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 三一

鶴龜 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多月宮殿) 三五

テの部

目次

定家 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 三七

調伏曾我 (寶生、金剛、喜多) 四三

天鼓 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 四八

トの部

藤榮 (寶生、金春、金剛、喜多) 五四

東岸居士 (觀世、寶生、金剛、喜多) 六〇

東方朔 (觀世、金春、金剛、喜多) 六四

東北 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 六八

木賊 (觀世、寶生、金剛、喜多) 七三

融 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 七九

知章 (觀世、金春、金剛、喜多) 八五

朝長 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 九一

巴 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 九八

鳥追舟 (觀世、寶生、追鳥、金春、金剛、喜多) 一〇三

ナ の 部

仲光 (觀世、寶生、諸、金剛、仲、喜多) 一一〇

難波 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一二七

ニ の 部

錦木 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一二三

錦戸 (觀世、寶生、金剛) 一二九

ヌ の 部

鵠 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一三四

ネ の 部

寢 覺 (觀世) 一三九

ノの部

野 宮 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一四三

野 守 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一四八

ハの部

放 下 僧 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一五三

放 生 川 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一五九

白 樂 天 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一六四

羽 衣 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一六九

半 部 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一七四

橋 辨 慶 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一七七

芭 蕉 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 一八一

フ
の
部

鉢	木	(觀世、寶生、金春、金剛、喜多)……………	一八六
初	雪	(金春)……………	一九六
花	軍	(金剛)……………	一九八
花	筐	(觀世、寶生、金春、金剛、喜多)……………	二〇三
班	女	(觀世、寶生、金春、金剛、喜多)……………	二一〇
飛	雲	(觀世、寶生、金剛、喜多)……………	二一六
檜	垣	(觀世、寶生、金剛、喜多)……………	二一九
雲	雀	(觀世、寶生、金春、金剛、喜多)……………	二二四
冰	室	(觀世、寶生、金春、金剛、喜多)……………	二三〇
百	萬	(觀世、寶生、金春、金剛、喜多)……………	二三六

ヒ
の
部

富士山 (金春、金剛) 二四一

富士太鼓 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 二四六

二人靜 (觀世、金春、金剛、喜多) 二五一

藤 (觀世、寶生) 二五六

藤戸 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 二六〇

船橋 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 二六五

船辨慶 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 二七〇

木の部

佛原 (觀世、金剛、喜多) 二七七

マの部

卷絹 (觀世、寶生、金剛、喜多) 二八一

枕慈童 (觀世) 二八六

枕慈童(再出) (觀世童、寶生童、金剛童、喜多童) (上) 三一〇

正行 (金剛) 二八九

松風 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 二九二

松尾 (寶生) 二九九

松蟲 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 三〇三

松山鏡 (觀世、金剛、喜多) 三〇八

松山天狗 (金剛) 三一四

滿仲(再出) (觀世光仲、寶生、金剛、喜多) 一一〇

ミの部

通盛 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 三一八

三山 (寶生) 三二三

水無瀬 (喜多) 三二九

水無月祓 (觀世) 三三三

次

身 延 (觀世) 三三八

御 裳 濯 (金春、喜多) 三四一

三 輪 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 三四七

三 井 寺 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 三五一

ム の 部

六 浦 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 三五八

室 君 (觀世、金春) 三六三

メ の 部

和 布 刈 (觀世、寶生、金剛、喜多) 三六六

モ の 部

望 月 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 三七〇

求 塚 (寶生、喜多)……………三七八

紅 葉 狩 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多)……………三八四

盛 久 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多)……………三八八

ヤ の 部

楊 貴 妃 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多)……………三九五

養 老 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多)……………四〇〇

八 島 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多)……………四〇五

山 姥 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多)……………四一二

山 姫 (喜多)……………四一九

ユ の 部

雪 (金剛)……………四二二

遊 行 柳 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多)……………四二四

夕 顔 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多)…………… 四二九

弓 八 幡 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多)…………… 四三四

熊 野 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多_{谷湯})…………… 四三九

ヨ の 部

夜 討 曾 我 (觀世、寶生、金剛、喜多)…………… 四四六

吉 野 靜 (觀世、寶生、金剛、喜多)…………… 四五三

吉 野 天 人 (觀世)…………… 四五六

賴 政 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多)…………… 四五九

弱 法 師 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多)…………… 四六五

ラ の 部

雷 電 (觀世、寶生_{殿來}、金春、金剛、喜多)…………… 四七〇

羅 生 門 (綱) (觀世、寶生、金剛、喜多)…………… 四七五

リ
の
部

龍 虎 (觀世、喜多) 四七九

輪 藏 (觀世、喜多) 四八四

ロ
の
部

籠 祇王 (喜多) 四八八

籠 太鼓 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 四九六

牛
の
部

井 筒 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 五〇一

エ
の
部

烏 帽子折 (觀世、寶生、金剛、喜多) 五〇六

繪馬 (觀世、寶生、金剛、喜多) 五一五

ヲの部

小鹽 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 五一九

女郎花 (觀世、寶生、金春、金剛、喜多) 五二四

姨捨 (觀世、寶生、金剛、喜多) 五三〇

大蛇 (寶生、金剛、喜多) 五三五

謡曲下卷（白子の部）

竹生島

○竹生島 琵琶湖の北部に在る島で、延暦年中最澄此の島に大辯才天女を祀る。
○竹に生まるゝ、鶯は茂樹竹林中に巢をつくるので、竹生島の竹生をきかせ云つた。

○竹生島の明神 雷速彦命の子、淺井姫
○四の宮 安祥寺村の東南、四宮河原、今の山科村字四宮か
○河原の宮居 四宮河原の北、諸葉山の麓に在る諸羽明神の社。

○走井 大津市大谷町、もみ下の大谷町
○關の宮居 關の明神の社、もみ逢坂山の上に在つた手向の神。
○志賀の里 志賀は郡名にもあるが、天智天皇の都であつた地は大津市の北方。
○鳩の浦 琵琶湖の一名を鳩の海と云ふ

シ テ 龍 神（前は須翁）
ツ レ 辯 才 天（前は女）
ワ キ 官 人
ワ キ ズ レ 從 臣（二人）

ワキ 三人次第謡「竹に生まるゝ鶯の、く、竹生島詣いそがん。ワキ詞「そもくこれは延喜の聖代に仕へ奉る臣下なり。さても江州竹生島の明神は、靈神にて御座候間、此の度君に御暇を申し、只今竹生島に參詣仕り候。三人道行謡「四の宮や、河原の宮居末はやき、く。名も走井の水の月、くもらぬ御代に逢坂の、關の宮居を伏し拜み、山越近き志賀の里、鳩の浦にも著きにけり、く。ワキ詞「急ぎ候程に、鳩の浦に著きて候。あれを見れば釣舟の來り候。暫く相待ち便船を乞はばやと存じ候。シテサシ謡「面白や頃は彌生の半ばなれば、波も

竹生島